

## 5 総合的な学習の時間

実施時数を確保し、内容については個々の実態に合わせて、交流及び共同学習を行うなど具体的な実施に向けて検討して進めます。

実施形態としては、次のような形態が考えられます。

- 学年で行う時間（※小3以上）
- 通常の学級との交流及び共同学習
- 学級独自の時間設定
- 他の特別支援学級との合同学習

特別支援学級においては、特別支援学校の学習指導要領を参考にし、実情に合った教育課程を編成するとされていますが、「総合的な学習の時間」については、特別支援学級が、小・中学校に設置された学級であることから、同様に設けることとされています。さらに、学級独自の取組と、通常の学級や学校全体の取組などとの関連を念頭に置き計画を立てていくことが必要です。そのためには、教職員間の連携や共通理解が必要です。

※知的障害を対象とする特別支援学校小学部の教育課程に総合的な学習の時間は設定されていません。中学部には設定されています。

## ◆「総合的な学習の時間」と「生活単元学習」の違いについて

	総合的な学習の時間	生活単元学習
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが生活上の目標を達成したり、課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習する。</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際理解，情報，環境，福祉，健康などの横断的・総合的な課題</li> <li>・地域や学校の特色に応じた課題</li> <li>・興味・関心に基づく課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活に即した内容，行事，季節，偶発的事柄に関する単元</li> <li>・子どもの生活上の課題に関する単元</li> <li>・興味・関心に基づく課題</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら取り組む姿，自ら考える姿などの意欲面</li> <li>・主体的な態度を中心に，子どもの質的变化という観点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能の習得など，各領域・教科の目標に沿った評価</li> <li>・主体性・集団参加の状況等の評価</li> </ul>

実際に学習を展開していく部分では、内容がかなり重なる部分がありますが、それぞれの目標等を踏まえて、教育活動を展開します。